

小野沢栄里（獣医保健看護・看護）、今井彩子（獣医保健看護・外科）

研究の背景

犬の老化は、身体的や行動学的変化として現れ、健康寿命やQOLに深く関わります。加齢に伴う変化として、徘徊や夜鳴きなどの認知機能低下や、視力・聴力の低下などの感覚機能の低下、散歩の距離が短くなったことや寝ていることが多くなったなどの活動量の低下のほか、身体的変化の特徴として、筋肉量の減少や姿勢、歩様の変化、食べ方の変化などが認められます。

また、多くの飼い主は高齢動物の介護によって変化する生活に対する戸惑いや、頑張りすぎて日々の介護で疲弊しています。「犬も飼い主も楽しい介護生活」が送れるように、飼い主が老化の兆候（ちょっとした変化）を捉えることができれば、生活環境の改善など、早期介入することが可能となり、犬も飼い主も心身ともにQOL向上に繋がると考えています。

そこで本研究では、犬の老化の兆候を捉えることができる一助となるような指標を見つけることを目的としています。



アプローチ

対象動物：犬

研究方法：動画や写真の解析を行い、加齢に伴う現象を調査

動画を解析することで老化現象出現を記録し、

評価することに加え、客観的な指標を得ることを目標としています。

期待される結果

老化の兆候を早期に捉えることで、以下のことが期待できます。

- ・自宅での環境改善を早期に行うことができ、犬のQOL改善に役立つ
- ・飼い主が老化の兆候を早期に捉えることができるようになる
- ・本研究データは犬の健康寿命が伸びるきっかけになるかも！?

本研究に参加することで、高齢動物に関する知識が身につくだけでなく、グループワークを通して、他者と協働する力を身につけることができます。

募集方法

募集人数：若干名

詳細は説明会にてお話しします

下記条件に当てはまる方

- ・積極的に学ぶ意欲がある方
- ・教員や仲間と協働して活動ができる方
- ・責任感を持って誠実にデータを取り扱うことができる方

連絡先：e-onozawa@azabu-u.ac.jp

